

# まほろば秦野通信

平成29年3月21日

秦野市市長室広報課

タイトル	<b>秦野市消防本部に特別救助隊が発足！！ 新救助工作車をお披露目します</b>
When (いつ)	4月7日(金) 午前9時半～午前10時半
Where (どこで)	秦野市消防本部(秦野市曾屋757) 屋外訓練場
Who (だれが)	市消防本部・消防署
What (なにを)	<b>【主な内容】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・特別救助隊の発隊式を実施</li><li>・特別救助隊による新救助工作車及び装備品等の紹介</li><li>・新救助工作車の車内見学など</li></ul>
How (どのように)	 
Why (なぜ)	先人たちがこれまで築き上げた秦野市救助隊の伝統と誇りを継承し、格上げされた特別救助隊による決意を市民に公開し、消防に対する認識と信頼を深め、消防職員の士気の高揚を図るものです。
過去の実績	今回が初
今後の取り組み	市民の安全と安心のため、日々訓練に精励し職務を遂行します。
ホームページURL	<a href="http://www.city.hadano.kanagawa.jp/www/contents/1488173727428/index.html">http://www.city.hadano.kanagawa.jp/www/contents/1488173727428/index.html</a>
問い合わせ	消防総務課 担当：綾部猛 電話0463(81)5451

## 車両の特徴について

### 1 車内の（ハイルーフ）仕様について

救助工作車（2型）は現場到着後、隊員が迅速に活動入れるよう車内空間を広く取り、出場途上でも活動隊員が確実に個人装備の着装を行い、さらにこれまで車内に積載できなかった資機材を車内に積載することで、現場到着前に資機材の設定を行えます。

### 2 本市の救助工作車では初の緊急消防援助隊車両

この車両は平成29年4月1日より緊急消防援助隊車両として大規模地震等が発生した場合、被災地に派遣する車両となっています。

緊急消防援助隊の出動要請は大規模かつ広域的な災害によって被災地での消防力では対応が困難なことから要請されます。

### 3 大型照明器具など、すべてLED照明化

消費電力を抑えて、寿命も非常に長い特性があります。

### 4 救助工作車では初の4輪駆動

悪路などにおける、走行性能や安定性の向上

## 資機材の特徴について

### 1 酸素呼吸器（ドレーゲルPSSBG4Plus）

トンネルや地下鉄、地下施設などで酸欠事故や有毒ガスが発生した場所で使用します。

自分の吐いた二酸化炭素を吸収剤できれいにし再循環させることで長時間呼吸をすることができます。

また、これまでの酸素呼吸器では連続活動使用150分でしたが、4時間活動することが可能となりました。

### 2 レスキューマックス（#412）

これまでの火薬式から空気充填加圧式となりました。

往来ができない対岸など離れた場所へ救助ロープを受け渡すため、ペットボトルロケットのように圧縮した空気の力によって救命索のつながった弾体を遠くに飛ばします。

到達距離：最長107m 発射元：空気充填加圧式

# 発隊式 内容一覧

時間	次第	内容
(第1部) 09:30 ) 09:50	式典	・市長(訓示)
		・来賓者紹介
		・消防長(あいさつ)
		・特別救助隊ワッペン授与
		・消防署長(決意表明)
(第2部) 09:55 ) 10:30	新救助工作車の説明及び車内乗車見学	
	自由見学	・新車両と救助用資機材の見学をしよう。  主な救助用資機材 酸素呼吸器、マンホール救助器具、熱画像直視装置 NBC資機材、要救助者搬送用資機材、救命索発射装置 救助用送風機、空気式救助マットなど

## 秦野市消防本部 特別救助隊発隊式



開催日：平成29年4月7日(金)  
09時30分～10時30分

場所：秦野市曾屋757番地  
秦野市消防本部 屋外訓練場

(雨天時は第1部式典のみ車庫内で実施)

お問い合わせ

秦野市消防本部消防総務課庶務担当

電話：0463-81-5451

※お車でお越しの際は裏面の会場案内図をご参照下さい。

主催：秦野市消防本部 消防総務課

# 会場案内図

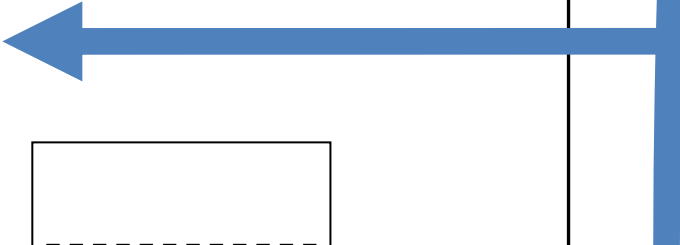
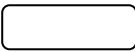
パチンコメルシー

来場者  
駐車スペース

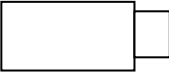
至 ダイアパレス

富士オフセット (株)

受付場所



救助工作車



来賓席

秦野市消防本部

救助用資機材展示  
スペース  
(資機材説明)

一般見学者  
スペース



## 平成28年度更新車両 救助工作車（2型）

今年度整備した救助工作車（2型）は現場到着後、隊員が迅速に活動入れるよう車内空間を広く取り、出場途上でも活動隊員が確実に個人装備の装着を行い、さらにこれまで車内に積載できなかつた資機材を車内に積載することで、現場到着前に資機材の設定を行うためバスキャブを採用しました。



<クレーン>

型式：ユニック

URU-343G

最大吊り上げ荷重：2.9 t

ブーム：3段ブーム

最大作業半径 7.51 m  
/6

最大地上揚程 9.7 m

操作 有線・無線

<大型照明装置>

旋回：±180度

明るさ：2, 100W×2灯

地上高：6M（4段）

<ウィンチ>

型式：ロツラー社製TR030

能力：常用50KN

ワイヤー長：60m